

帝京大学霞ヶ関キャンパス 公開講演会

「世界はなぜ過激化するのか？
—イスラム過激主義テロと西欧社会、そして日本」
仏語（日本語通訳付）・入場自由

講演者：ファラッド・コスロカヴァール教授
(フランス社会科学高等研究院 EHESS)

司 会：池村俊郎(帝京大学経済学部教授)

日 時：2017年10月11日(水) 午後6時～8時

場 所：帝京大学霞ヶ関キャンパス

(千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー9階
地下鉄「永田町駅」4番出口 徒歩1分)

主 催：帝京大学経済学部

協 力：公益財団法人日仏会館及び笹川日仏財団
(学術助成プログラム)

教授は、イスラムと西欧世界の関係に詳しく、現在では西欧各国の社会にとって重大な脅威となっているイスラム過激主義テロについて、社会学的なアプローチから独自の深い調査分析の成果を発表してきています。日本で著書が翻訳出版された（『世界はなぜ過激化するのか？』藤原書店刊）のを機会に来日して講演を行います。西欧社会、特にイスラム系移民とその次世代が多く住むフランスでなぜ、大規模なイスラム過激派テロが頻発するのか。西欧世界とイスラムの共存のむづかしさ、政教分離主義がもたらす宗教間の断絶と亀裂、そこに「IS」（イスラム国）など国際情勢がもたらす不穏な影響力も加わり、イスラムの若者を激しいテロ行動に走らせています。はたして西欧各国の移民政策に綻びはなかったのか。それは人口減に直面し、労働力と社会の活力維持のため、移民政策の議論を避けて通れない日本の将来にも教訓を与えています。西欧世界で生きるイスラム系の若者たちに何が起きているのか。その研究の第一人者である教授にうかがいます。

【教授略歴】1948年テヘラン生まれ、仏・イラン両国籍の社会学者。著書20冊以上、うち3冊が英・独・伊・西語など7言語に翻訳出版される。イラン革命や西欧イスラム系住民のフィールド調査で知られる。70年代に仏留学し哲学と社会学で博士号。91年からEHESSで博士課程を指導し、米イェール、コロンビア両大学客員教授。2003年から仏刑務所でイスラム系服役者を調査し、刑務所と過激派の関係について注目すべき著書論文を多数発表している。

お問い合わせ

帝京大学経済学部 学部長室

E-Mail : hirota@main.teikyo-u.ac.jp